

植皮術 (Epitheltransplantation)

(臨床講義)

昭和6年1月26日

教授 醫學博士 鳥瀉隆三 講述

助手 醫學士 赤木 信 筆記

(講堂一ハ既ニ3名ノ患者ガソレゾレ診察臺ノ上ニ横タハル。教授ガ其中ノ1名ヲ學生「ブラクチカント」ニ示シテ……)

教授「此ノ患者(第1例)ヲ御覽下サイ。左足ニ何か變ツタコトガアリマスカ。」

學生「内外髁ヨリ末梢部ノ足ノ健常ナ皮膚ガアリマセン。」

教授「コレハ昨年11月3日製絲作業中左足ヲ機械ニ挾マレテ負傷シタノデアリマス。外傷直後ノ所見デハ内外髁以下ノ表皮ガ趾端マデ全部剥ギ取ラレテ皮下結締織ヤ血管ヲ露出シ、足背デハ趾ノ伸展筋ノ腱が見エテ居リマシタ。出血ハ大シテアリマセンデシタ。コレハ鈍性ノ外傷デハ血管ガ捻挫サレマスカラ大出血ハ普通無イノデアリマス。此ノ様ニ表皮ガスツカリ剥ギ取ラレテ居ル状態ノ外傷ヲ何ト申シマスカ？」

學生「……」

教授「脱皮 (Schindung) ト言ヒマス。ソシテ同ジク脱皮デハアリマスガ、モシコレガ足デナクテ頭部ニ起リ即チ頭蓋ノ表皮ガ「ガレア」ト共ニ剥離サレ骨膜ガ露出シテ居ル様ナ状態ノ時ハ Schindung デハアリマスガ特ニソレヲ頭部脱皮 (Scalpierung) ト言ヒマス。髮ノ毛ガ機械ニ捲キ込マレタ時ニ往々起ル外傷デアリマス。

此ノ患者デヨク診ルト足背ヤ足蹠ハ軟部ガ全ク開放性ニ露出シテ居ルノデナクテ……」

學生「大部分ハ瓣狀ニ排列サレタ表皮デ被ハレテ居リ唯ダ足背ノ末梢ト趾ノミガ肉芽ヲ示シテ居リマス。」

教授「コレハドウシタノデスカ。」

學生「皮膚移植 (Hauttransplantation) ヲ行ツテアルノデアリマス。」

教授「コノ場合デハ皮膚全體デハナクテ表皮ノミノ移植ヲシタノデスカラ……」

學生「表皮移植 (Epidermistransplantation 又ハ Epitheltransplantation) デアリマス。」

教授「ソウデス。ドウシマシタカト言フト、外傷ヲ受ケテ病院ヘ來タ其時直チニ皮膚ノ剥ギ取ラレテ居ル部ヲ0.5%ノ Rivanol 液及ビ2%過酸化水素デ洗滌シ汚物ヲ洗ヒ落シ消毒綿紗デ拭ヒ、次デ茲ニ持ツテ來テアリマス植皮刀デ本人ノ右大腿部ノ表皮ノミヲソギ取

り、ソレヲ皮膚ノ剝ギ取ラレテ居ル部へ貼りツケ其上ヲ小サキ孔ノ澤山明ケテアル無菌的ノ「ゴム」ノ薄イ紙ヲ押ヘツケ、更ニ其上へ乾燥シタ消毒「ガーゼ」ヲ當テテ壓迫繃帶ヲシテ置イタノデアリマス。

ソレデ右大腿前面ヲ御覽下サイ。當時表皮瓣ヲソギ取ツタ所デアリマスガ既ニ表皮ガ新生シテ創ハーツモアリマセン。此様ナ方法デ表皮瓣ヲ皮膚缺損部へ移植スル方法ヲ Thiersch 氏ノ表皮移植術ト申シマス、

此ノ患者デハ移植後既ニ52日経過シテ居リマス。此ノ様ニ Epithel ヲ移植シ様ト思フ組織ヲバ例ヘバ1%ノ昇汞水又ハ0.5%「リバノール」液ノ如キ消毒藥デ洗滌シテモ一向差支ヘハ無イノデアリマス。ソレカラ皮瓣ヲ移植シタ部分ヲ乾燥シタ綿紗ノ如キモノデ押シ着ケテ壓抵シテ置ク方ガ食鹽綿紗ヲ輕ク屋瓦狀ニ當テテ置クヨリモ却ツテ成績ガヨイノデアリマス」。

教授「尙左足趾ヲ診マスト……」

學生「拇指ハ缺損シ II, III, IV, ノ趾ハ黑褐色ヲ帶ビテ居リマス。」

教授「拇指ノアルベキ所ニハ肉芽面ガアリ II, II, IV, ハ壞死ニ陥ツテ健康部ヨリ明ラカー區別サレテ居マス。之ヲ何ト申シマスカ？」

學生「限界線 (Demarkationslinie) ト言ヒマス。」

教授「ソウデス。此ノ線ヲ境ニシテ壞死ニ陥ツタ趾ガ脱落スルノデス。

ソレデアリマスカラ最初外傷ヲ受ケタ時ニ此ノ部ニ迄ハ表皮移植ヲ行ハナカツタノデアリマス。後日壞死ニ陥ルベキ部分、或ハ後日化膿スルコトガ明白デアル部分へ表皮ヲ移植シテモ無用デアリマス。移植術ヲ行フ際ニハ豫メ左様ノ點ヲモ判ヘル事ガ必要デアリマス。」

教授「今度ハ此ノ第2及ビ第3ノ患者ヲ御覽下サイ。何が見エマスカ？」

學生「何レモ一方ノ乳房ガ剔出サレ、ソノ缺損部ニ肉芽組織ヲ示シ大部分ニ Thiersch 氏ノ表皮移植ガシテアリマス」。

教授「此ノ2例(第2第3患者)共乳癌デ第2ノ患者デハ乳房切斷手術後1週目ニ第3ノ患者デハ3日後ニ植皮ヲシマシタ。」

教授「サテ植皮ハ何時スレバ最モ良イカト言フト創面ガ新鮮ナ時程結果ガ良好デス。新鮮ナ開放創デモ病原菌ハ既ニソノ創面ニ附着シテ居ルモノト推定セネバナリマセヌガ一定時間経過スル迄ハ化膿ハ起リマセヌ。

此ノ期間ハ外傷後大體12時間乃至24時間デスガコノ期間ヲバ……」

學生「……………」

教授「化膿前時期 (Stadium 或ハ Période préinflammatoire) ト申シマス。ツマリ一種ノ潜伏

期ト考ヘテヨロシイモノデアリマス。コノ潜伏期間内ニ植皮ヲ完了シテ局所ヲ表皮デ覆ヒ創液ガ局所ニ停滯シテ創面ヲ浮潤 (aufquellen) セヌ様ニスル方ガ一番結果ガ良イノデアリマス。此様ニスルトヨシ植皮ヲシタ部分ニ既ニ多少ノ細菌ガ附着シテ居ツタトシテモ其ノ細菌ハ組織液ト共ニ身體組織中ヲ他方ヘ運び去ラレテ撲滅サレ、從ツテ局所ニハ化膿ガ起リマセン。之ニ反シタトヘ無菌的ニ出來タ手術創デモ皮膚ノ覆蓋ガ無ケレバ創液ハ局所ニ停滯シ嚴重ナ無菌的處置ヲ行ツタニモ拘ラズ兩三日デ大抵局所ニ化膿ガ起ルモノデアリマス。

此處ニ御覽ニナル乳線別出ノ患者ハ 2人共前ニ述ベタ様ニ無菌的ノ手術ヲ行ツタ後ニ或ル一定時日ヲ經過シテカラ植皮ヲ行ツタノデアリマスガ原則トシテハ乳癌ノ切除ヲ行ツタ其時ニ引續キ直チニ植皮ヲスル方ガ良イノデアリマス。ソノ理由ハ前ニ述ベタ様ニ植皮瓣ハ肉芽面又ハ肉芽ヲ搔キ取ツタ瘢痕性結締織ノ上ニツケルヨリモ出來タテノ新鮮(無化膿)創面ニツケル方ガ非常ニツキ易イカラデアリマス。

此ノ2人ノ乳癌手術後ノ患者デ御覽ノ通り植皮瓣ハ第1例ノ患者(外傷直後ノ表皮移植)ニ於ケルガ如クヨクツイテハ居リマセン。即チツイタ表皮瓣モ比較的菲薄デマタ所々表皮片ノツカナカツタ部分モ多イノデアリマス。」

教授「植皮後ノ處置トシテハ單ニ開放露出シテ置クトカ或ハ多クノ場合生理的食鹽水デ濕シタ綿紗ヲ屋瓦狀ニ植皮サレタ表皮ノ上ニ載セテ其部ヲ濕潤ニ保存スルツカ致シマシタガ今日デハ反對ニ出來ルダケ植皮表面ヲ乾燥ニ保存シ且ツ壓ヲ加ヘル方針ヲ取りマス。即チ乾燥シタ無菌「ガーゼ」デ直接ニ植皮部ヲ壓抵スルカ、或ハ所々穴ヲアケタ「バラフィンガーゼ」又ハ「ゴム」紙ヲ載セ、ソノ上カラ無菌的乾燥「ガーゼ」ヲ以テ壓抵シテ置クノデアリマス。植皮サレタ表皮瓣ハ如何ナル場合デモ決シテ無菌性デハアリマセン。此ノ中ニハ病原性が微弱デハアルガ兎ニ角ニ細菌ガ保有サレテ居ルモノデアリマス。ソレ故ニ其ノ植皮瓣ヲ濕潤シタ「ガーゼ」ヲ以テ保護スル事ハ其中ノ細菌ノ繁殖ヲ促スコトニナリマス。此ノ様ナ譯デアリマスカラ植皮瓣ノ表面ハ出來ルダケ乾燥スル様ニ、且ツ植皮瓣ト組織トノ間ニ體液ノ潑溜ガ起ラヌ様ニ一定ノ壓ヲ加ヘルト言フ方針ガ生レテ來タノデアリマス。即チThiersch 氏ノ植皮ヲ行ツタ部分ニハ乾燥綿紗デ適當ノ壓抵繃帶ヲ施スト言フコトニナリマス。

教授「此處ニ御覽ニナル第 4ノ患者ハ11歳ノ小供デアリマスガ生後10ヶ月目、火鉢デ火傷シテ指ガ瘢痕デ屈曲シテ居ツタモノニ無菌的ニ瘢痕ヲ除去シテ指ヲ十分ニ伸展セシメ其時直チニ本人ノ上腿ノ表皮ヲ移植シ乾燥綿紗ヲ以テ壓抵繃帶ヲ施シテ置イタモノデアリマスガ、16日經過シタル今日立派ニ癒着シ指節ノ屈伸自由トナツテ居ルモノデアリマス(第1圖参照)



第一圖

途カラ外側ノ半分ニハ連鎖狀球菌ト 葡萄狀球菌トノ混合
 コクチゲン軟膏ヲ貼附シ内側ノ半分ニハソレヲ行ハズ單ニ無菌的乾燥ガーゼヲ覆ツテ置キマシタ。

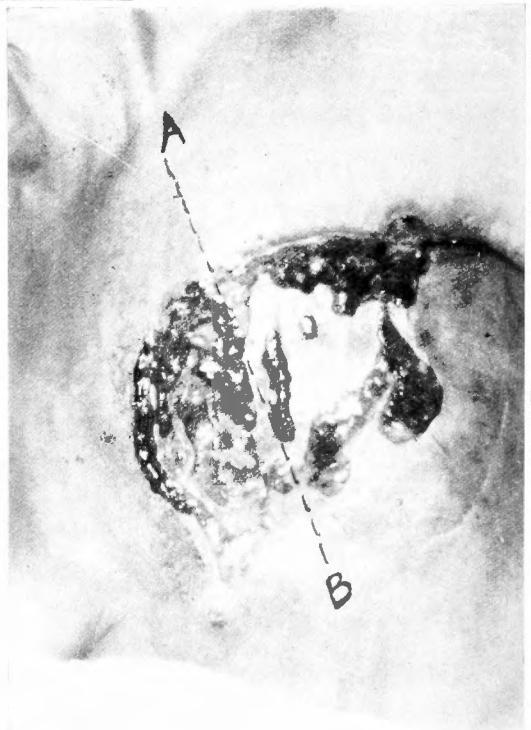
ソノ結果コクチゲン軟膏貼附側ハ皮膚癬ノ營養モ佳良デ細胞ノ増殖モ旺盛デアルト見エテ皮膚癬ソレ自身が厚サニ於テモ廣サニ於テモ増大シタルニ反シコクチゲン軟膏ヲ使用セザリシ内側デハ皮膚癬ノ一部ハ次第ニ菲薄トナルノミナ

教授「今度ハ此方へ來テ今一度仔細ニ此ノ第2ノ患者ノ植皮部ヲ御覽下サイ何カ變ツタコトガアリマセヌカ？」

學生「植皮部ノ内側ノ半分ハ植皮瓣モ菲薄デ且ツ相互ノ間ニ膿ヲ附着シテ居ル肉芽面ヲ示シテ居リマスガ外側ノ半分ハ植皮瓣モ厚ク且ツ肉芽面ヲ全部被覆シテ居リマス(第2圖參照)

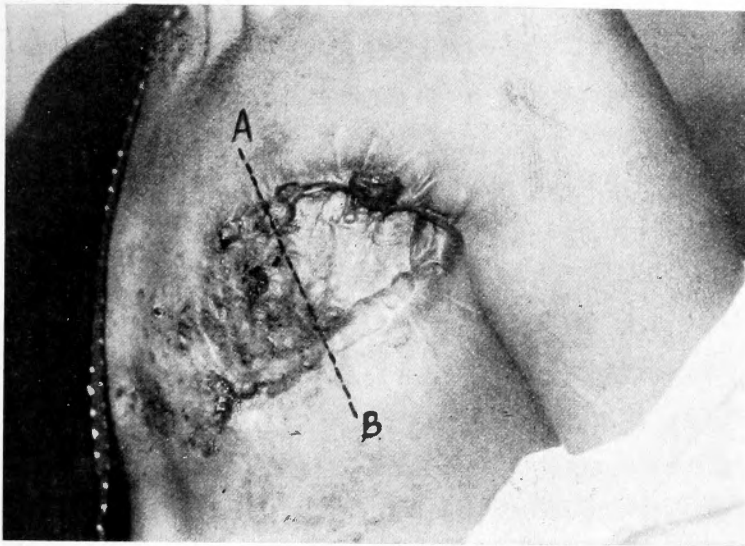
教授「其通りデアリマス、コレハ故ラニ作爲シタカノ如ク見エマスガ、其實ハ最初ハ肉芽面全部ニ亘ツテ同様ニ表皮瓣ヲ移植シ同様ノ處置ヲシテ居ツタモノデアリマスガ中

第二圖



線A Bノ向ツテ右側ハ「コクチゲン」軟膏貼附側

線 A B ノ 向 ヲ テ 右 側 ハ 「 コ ク チ ゲ ン 」 軟 膏 貼 附 側



第 三 圖

ラズ、周邊カラ破壊サレテ消耗シ、茲ニ御覽ニナル様ナ結果トナツタモノデアリマス。Lコクチゲン」軟膏ヲ使用シテカラ今日デ20日目デアリマス。

附記。植皮後第143日目一ハ第3圖ノ如キ所見ヲ

呈シタリ。此時期ニテモ亦 Lコクチゲン」軟膏貼附側ノミハ皮瓣細胞ノ増殖ガ、凡テノ方向ニ旺盛ナルヲ認ム。(第3圖参照)

教授「此ノ様ナ顯著ノ差別ヲ得タ譯ヲ何ト説明シタラヨイデスカ？」

學生「……………」

教授 Lコクチゲン」軟膏ヲ貼附シタ皮膚局所ハ一定ノ免疫ヲ獲得スルノハ既ニ立證サレテ居リマス。又Lコクチゲン」ハ白血球ノ喰燼作用ヲ(特種性ニモ非特種性ニモ)促進スル作用ノアルコトモ十分ニ證明サレテ居リマス。ソレデアリマスカラLコクチゲン」軟膏ヲ貼附シタ側デハ其ノ植皮瓣ノ細胞ハ免疫性ヲ得テ化膿(主トシテ葡萄狀球菌)ニ打チ勝チテ増殖スルコトガ出來マス。又同時ニLコクチゲン」軟膏貼附側デハ喰燼作用ガ旺盛デ從ツテ細菌ノ繁殖モ衰退シ從ツテ細菌繁殖ニヨル皮瓣ノ破壊セラルルコトモナイモノト考ヘネバナリマセン。此ノ二ツノ事實ニヨツテLコクチゲン」軟膏貼附側ノ植皮成績ガ斯ノ如ク顯著ニ優秀デアアルコトガ説明出來マス。此様ナ好成績ハLコクチゲン」軟膏ニ限ルコトデアルカ或ハLワクチン」デモ同様ノコトガ出來ルカナドノ問題ハマダ今後研究ノ必要アルコトデアリマス。併シLコクチゲン」ガLワクチン」ニ優ルモノデアアルコトハ既ニ十二分ニ立證サレタ所デアリマスカラ先ヅ此ノ如キ結果ハLコクチゲン」軟膏ノ作用ト認メテヨイモノデアリマス」。

教授「從來ハ植皮術ノ結果ヲ免疫學的ニ觀察シタコトハアリマセンガ併シ化膿シテ居ル開放性創面或ハ化膿ニ傾キ居ル開放創ニ植皮サレタ皮瓣ガ其所デ化膿ニ打チ勝ツテ増殖ス

ルト言フコトノ爲一ハ必ず免疫性ヲ獲得セネバナリマセン。此ノ點カラ言フト豫メ免疫シテアル皮膚カラ皮瓣ヲ採取スルカ或ハ皮瓣ヲ移植シテ直チニ免疫元ヲ局部ニ作用サセルガ合理的ナ譯ニナリマス。第2ノ患者ニ御覽ノ如キ顯著ノ差別ガ起ツタノモ此處ノコトデアリマス。

教授「諸君！Thiersch氏植皮術デハ表皮瓣ガ化膿デ死滅スルト何ノ役ニモ立チマセン。ソレナラバ創面ガ化膿シテ居ルト植皮ト言フコトガ絶對不可能デアルカドウカト言フ疑問ガ起リマスガ如何デアリマスカ？」

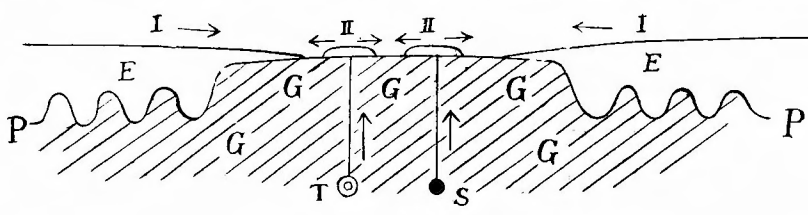
學生「……………」

教授「創面(詳シク言ヘバ肉芽面)ニ化膿ガアツテモ表皮ノ細胞ハ可ナリ良好ニ新生シテ創面ヲ覆フモノデアリマス。例ヘバ第二度ノ火傷デ廣汎ナ表皮缺損ガ生ジ肉芽面トナリ、其ノ表面ハ開放性デ從ツテ化膿シテ居ツテモ、周圍ノ健康皮膚ノ邊緣カラ旺盛ニ表皮新生ガ出來テ潰瘍面ガ次第ニ縮少シマスノミナラズ周圍ノ皮膚ト無關係ニ肉芽面ノ中程カラ散在性ニ表皮細胞ガ現レテ各々島嶼狀ニ肉芽面ヲ覆ヒ、ソレ等ガ相互ニ接近連絡シテ終ニハ全肉芽面ガ菲薄ナガラ表皮デ全ク覆ハレテ了ヒ相當ニ大キイ潰瘍面モ治癒シ得ルモノデアリマス、ソレ故ニ一定度ノ化膿ガアツテモ表皮細胞ノ新生ニヨル肉芽面ノ覆蓋ハ可能デアリマス。此ノ際ニハ化膿ノ中ニ在ル表皮細胞ハ一定度ノ免疫性ヲ獲得シ、化膿ニ對シテ無感性(即チ免疫性)トナリズンズン新生スルモノト考ヘネバナリマセン。此點カラ考察スルト化膿性ノ肉芽面デモ一定ノ方法ヲ用フルト表皮ノ新生ヲ來シ其ノ肉芽面ヘノ植皮ノ目的ヲ達スル事ガ出來ル譯デアリマス。一定ノ方法トハドノ様ナ方法デアリマスカ？」

學生「……………」

教授「ソレデハ方面ヲ換ヘテ質問致シマスガ廣汎ナ肉芽ガ新生表皮デ覆ハレテ治癒スル一當リ、ソレハ決シテ周圍ノ健康表皮カラ中心部ニ向ツテ新生シタモノバカリデハナク、前ニ述べタ様ニ肉芽面ノ中央部デ散在性ニ島嶼狀ニ表皮新生ガ現ハレテ來ルコトモアルハ如何シタ譯デアリマスカ？」

學生「ソレハ肉芽ノ深部ニ潜在シテ居ル皮脂腺、汗腺等ノ「エピテル」細胞ガ新生シテ肉芽



- G=肉芽創面。
- E=創面ノ周邊ニアル健康皮膚ノ表皮層。
- P=同上ノ乳嚢層。
- I=ヒヨリ肉芽面上ヘ新生シ來リタル表皮。
- S=肉芽ノ深部ニ潜在セル汗腺ノ上皮細胞。
- T=同上皮脂腺ノ上皮細胞。

第四圖

II = S 及ビ T ヨリ新生シ最初先ツ島嶼狀ニ肉芽面ヲ覆ヒタル表皮 II ハ後日互ニ及ビ I トモ癒合シ創面治ス。

面ヲ被覆スルカラデアリマス。」

教授「其處デス II 此ノ有様ヲ圖ニ示スト次ノ様ニナリマス」。(第4圖)

此ノ圖ノ中デTヤSハ肉芽ノ深部ニ在ル皮脂腺ヤ汗腺ノ上皮細胞デアリマス。IIハソレガ新生シテ表層ニ達シ肉芽ヲ覆フニ至ツタモノデアリマス。マタIハ周圍ノ健康表皮カラ新生シタル「エピテル」デアリマス I, II ハ肉芽ノ化膿ニ打ち勝ち旺盛ニ増殖新生シテ終ニハ相互ニ癒合シ、カクシテ大ナル創面モ治癒スル譯デアリマス。此ノ様ナ次第デアリマスカラ、普通アルガ如キ一定度ノ肉芽面ノ化膿ハ必ずシモ忌避スルニ足りマセン。幼弱ナル「エピテル」細胞ハ免疫ヲ獲得シテ新生スルノデアリマス。デアリマスカラ一定ノ方法ヲ用フルト肉芽面(創面)ガ化膿シテ居ツテモソレニハ御カマヒナシニ植皮ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルノデアリマス。一定ノ方法ト申スノハドノ様ナ方法デアリマスカ?

學生「……………」

教授「少々考ヘテ此處デソノ方法ヲ案出スルコトガ出來マセンカ?

學生「……………」

教授「コノ圖デヨク御覽下サイ。肉芽ノ深部ニ殘存シテ居ツタ「エピテル」細胞ガ肉芽表面ノ化膿アルモ拘ラズ、自ら免疫性ヲ得テ化膿ニ打ち勝ち化膿肉芽ノ表面ヘ進出シテ細菌ヲ押シノケテ自分自身増殖新生シ「エピテル」細胞ノ個有ノ性質デアル所ノ新生ニヨル覆蓋作用ヲ發揮スルノデアリマス。ソレデアリマスカラ此ノ事實ニ立脚シ更ニ一歩進メテ一種ノ植皮法ヲ考案スルコトガ出來マセンカ?

學生「……………」

教授「ソレハ斯ウスルノデアリマス。此ノ圖デ T, S ハ元來此部ニ存在シテ居ツタ即チ土着ノ「エピテル」細胞デアリマスガ、イツデモ此ノ様ナ「エピテル」ガ肉芽ノ深部ニアルトハ限りマセン。ソレデ植皮ヲ必要トスルガ併シ肉芽面ガ化膿ニ傾キ易イトカ、現ニ化膿シテ居ル場合トカニハ極メテ小ナル粟粒大又ハソレヨリモ更ニ小ナル表皮ノ極ク微小ナ塊ヲ肉芽ノ深部ヘ散在性ニ挿入埋沒シテ置クノデアリマス。丁度以前カラ肉芽ノ深部ニ散在性ニ土着ノ「エピテル」細胞ガアル場合(第4圖)ヲ人爲的ニ眞似テ造リ上ゲルノデアリマス。サウスルト其ノ小ナル「エピテル」細胞ノ塊ガ肉芽ノ深部デ一面ニハ免疫ヲ得、他面ニハヨク生存ヲ續ケ1,2週ノ後ニハ新生細胞ガ肉芽面ノ表面ヘ進出シテ化膿ニ打ち勝ち島嶼狀ニ肉芽ヲ被覆スルノデアリマス。(教授學生ヲ差シ招キ)此所ヘ來テ此ノ第1(足脱皮)患者ノ足背ノ末梢部ヲ精細ニ御覽下サイ。何か變ツタモノガ見當リマセンカ?

學生「所々ニ直徑1.0糎カラ2.0糎位ノ圓形ノ表皮ガ離レ離レニ足背末梢部ノ肉芽面ヲ覆ツテ居リマス」。

教授「コレデス! 此ガ即チ約1ヶ月前ニ唯今述ベタ様ナ方法デ小サナ表皮ノ微粒塊ヲ肉芽ノ

深部へ消息子デ押シ込ミ埋没サセテ置イタモノカラ新生シテ島嶼狀ニ肉芽面ヲ被覆スルニ至ツタモノデアリマス。但シ此際ニ使用シタ表皮ノ微粒ハ此ノ患者自身ノモノデハナクシテ切斷術デ得タ他ノ患者ノ下肢カラ採取シタ表皮デアリマス。此ノ足背デハ趾ガ挫傷ヲ蒙リ現ニ壞死ニ陥リ居ルモモアリ、從ツテ化膿ガ相當ニ強イノデアリマスカラ Thiersch 氏法ニヨル表皮植皮術ヲ行ハズシテ上記ノ様ナ方法デ植皮ヲ試ミタノデアリマス。此ノ様ナ方法ノ植皮術ヲ何ト申シマスカ?」

學生「……………」

教授「コレヲバブブラウン氏ノ表皮栓植術 (Epithelpfropfung nach W. Braun)ト申シマス。併シ W. Braun ハ前ニ掲ゲマシタアノ圖ニ示シタ様ナ類似 (Analogie) ヤ、上ニ述ベタ様ナ理由ヤ意義ヲ自覺シテノ上デ此ノ方法ヲ案出シタモノデアルカ、乃至ハ此ノ方法ニ對シテ上ニ述ベタ様ナ意義ヲ附ケテ居ルカドウカハ不明デアリマス。」

教授「移植術ニハ例ヘバ自分自身ノ右上腿ノ表皮ヲ移植スルノヲ……………」

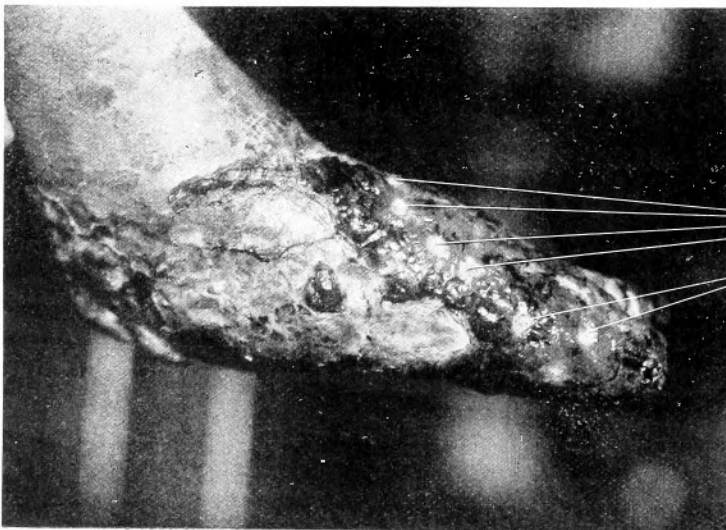
學生「自家移植 (Autotransplantation) ト申シマス。」

教授「之ニ反シテ他人ノ皮膚ヲ持ツテ來ルノヲ……………」

學生「同種移植 (Homotransplantation) ト申シマス。」

教授「此ノ第1ノ患者ノ足背末梢部ノ化膿ノ著明ナ肉芽面ヘ栓植術ヲ行ツタ表皮ハ前ニ述ベタ如ク同種移植デアリマス。勿論自家移植ノ方が成績ガ良イノデアリマスガ同種移植デモ Braun 氏栓植術ハ60—70%ハ目的ヲ達スルト申サレマス。輸血ノ場合ト異ナリ前以テ血型ナドヲ見テ置ク必要ハアリマセン。

此ノ患者デハ御覽ノ通り直徑1.5糎位ノ正圓形ノ表皮細胞増殖ガ島嶼狀ニ數個現ハレテ居



リマスガ(第5圖)之ハ16

日目ノ所見デス。併シ

此ノ如ク一旦成功シタ

カノ如クニテモ自家移

Braun氏

栓植術ニヨル

正圓形ノ表皮

細胞増殖。

殖デナイ場合ニハ後ニ

ハ往々再ビ死滅スルコ

トモ多イノデアリマス。

第 五 圖

(附記) 此ノ患者ニテハ此ノ増殖 Epithel ハ栓植術後40日ニシテ全ク消失セリ。

教授「今度ハ此方へ來テ此ノ第5ノ患者ノ右上腿ヲ御覽下サイ。何が見エマスカ?」

學生「大腿前面長軸ニ沿ヒ肉芽面ヲ示シ其ノ中央ハ深部ニ入り此處ニ開放性ノ一空洞ヲ示シテ居リマス」。

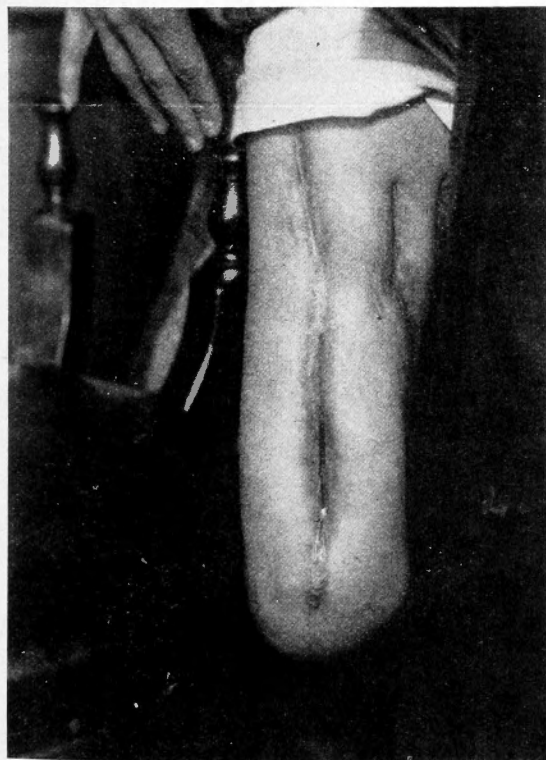
教授「即チコレハ急性化膿性骨髓炎手術後ニ再發シタ場所(即葡萄狀球菌感染肉芽)ヲ手術的ニ開放シ瘻型形成 (Muldenbildung) ヲ行ツタモノデアリマスガ、此ノ如キ感染肉芽ガ骨空洞ノ中ニアル場合ハナカナカ治癒シマセン。從來試ミラレタ治療法ノ一ツハ表皮ヲスリ潰シテ粥ノ様ニシテソレヲ深部ノ肉芽面ヘ塗リツケテソレニヨリテ肉芽面ガ「エピテル」デ被ハレルコトヲ企テタモノデアリマス。此ノ様ナ植皮方法ヲ何ト申シマスカ?」

學生「マンゴールド氏ノ表皮細胞播種法 (Epithelaussaat nach Mangoldt) ト申シマス。」

教授「併シ此ノ如キ方法デ化膿シテ居ル、或ハ化膿ニ傾イテ居ル開放性ノ肉芽面上ヘ「エピテル」細胞ヲ塗リツケテモナカナカソレガ表皮覆蓋ノ目的ヲ達シマセン。ソレデ此ノ如キ方法ハ今日殆ド行ハレマセン。ソコデ此様ナ場合ニ何かヨイ思ヒツキハアリマセンカ?」

學生「……………」

教授「唯今上ニ述ベタ様ニ Braun 氏ノ表皮栓植術ヲ試ミタラバヨカロウトハ考ヘラレマ



第 六 圖

センカ? 此ノ様ナ例ニハ試ミテモ然ルベキコトデアリマスカラ此ノ患者ニハソレヲ行ヒマセウ」。

附記。患者自身ノ表皮ノ微粒塊ヲ肉芽ノ深部ヘ栓植センコトヲ試ミタレドモ骨空洞ヲ蔽ヘル肉芽層ハ淺クシテ目的ヲ達セズ。ソレデ Thiersch 氏ノ皮瓣ヲ以テ肉芽面ヲ其儘被覆シ「ガーゼ」ノ壓抵ヲ行ハズ金網ヲ以テ保護シ露出セリ。化膿ノ相當ニ顯著ナル肉芽面ナリシニモ拘ラズ皮瓣ハヨク癒着シ最初約50珇ヲ容ルル位ノ空洞ナリシモ次第ニ小トナリ、皮瓣移植後10日目ニシテ膿汁ハ著シク減少シ20日目ニシテ殆ンド出デザル様ニナレリ。空洞モ40日後ニハ殆ド消失セリ。

(第6圖ハ第69日目ノ所見)。

教授「今迄申シタ事ヲ總括シマスト次ノ様ニナリマス。

- | | | | | |
|--------|---|----------------------|---|---|
| I. 植皮術 | { | 皮膚ノ全層(真皮層ヲ含ム)ヲ移植スルモノ | { | a) 有莖瓣狀移植
b) Krause氏法即チ
無莖瓣狀移植 |
| | | 表皮ノミ移植スルモノ | { | a) Thiersch氏法
b) Mangoldt氏法
c) W. Braun氏法 |

- II. Thiersch氏法デハ創面ガ新鮮ナ程結果ガ良イ。化膿菌ガ附着シテ居ル筈ノ開放性外傷創面デモ化膿前時期 (période préinflammatoire) ニ之ヲ行ヒ創液ガ出ヌ様ニ(換言スレバ創液ガ組織中ヘ入ル様ニ) スレバツレデ好成績ヲ得ル。
- III. 創面ヲ普通ノ消毒藥(昇汞水、リバノール水)等デ洗滌シテモ植皮ノ結果ヲ害セス。
- IV. 一定程度(普通ノ開放創ニ來ルガ如キ)化膿ノアル肉芽面ヘデモ Thiersch氏法デ皮瓣ヲ貼リツケテ置イテモソレデモ治癒スルコトガアル(第6圖)
- V. Thiersch氏皮瓣ヲ移植シタコノ部ハ開放性ニ空中ニ暴露シテ乾ク様ニシテ置イテモヨイ。(第6圖)
- 無菌的乾燥_Lガーゼ₇デ壓抵繃帶ヲ施シテ置ク方が更ニヨイ。
- 併シ皮瓣ノ表面ヲ食鹽水デ濕潤サセテ置クコト(從來行ハレタコト)ハ却ツテヨクナイ。コレデハ却ツテ皮瓣ノ中ニアル細菌ノ繁殖ヲ促スカラデアル。
- VI. 相當ニ強イ化膿ノアル肉芽面デモ Braun氏ノ栓植術ヲ施セバ肉芽面ヲ表皮デ覆蓋セシムルコトノ目的ヲ達シ得ル。
- VII. a) 植皮ヲ行ハントスル創面ヲ前以テ局所性ニ免疫シテ置クコト。
b) 植皮ヲ取ラントスル皮膚ヲ前以テ普通ノ化膿菌(葡萄狀球菌)ニ對シ局所性ニ免疫シテ置クコト及ビ
c) 既ニ植皮シタ皮瓣ニ向ツテ引續キ免疫的處置ヲ講ズルコト(第2圖及ビ第3圖ヲ見ヨ)ハ植皮術ニ於テ今後研究スベキ新シキ項目デアル。(終リ)